

会 議 記 録			
会 議 の 名 称	全 員 協 議 会	場 所	全 員 協 議 会 室
		担 当 職 員	阿 久 根 由 美 子
日 時	平 成 2 6 年 7 月 7 日 (月 曜 日)	開 議	午 前 1 1 時 0 0 分
		閉 議	午 後 0 時 0 2 分
出 席 議 員	議 員 2 6 名		
執 行 機 関 出 席 者	大規模スポーツ施設整備プロジェクト・チーム (政策推進室) 桂室長、竹村政策推進課長、柏尾政策推進課施設担当課長 (環境市民部) 中川部長、西田市民生活・保険医療担当部長、吉村環境政策課長 (産業観光部) 山田部長、内田農政担当部長 (まちづく推進部) 古林部長、橋本土木担当部長、伊豆田都市整備課長、並河桂川・幹線道路課長、山内都市計画課副課長 (上下水道部) 大西部部長、中井事業担当部長		
事 務 局 出 席 者	藤村局長、山内次長、阿久根副課長、山崎係長		
傍 聴	可・否	市民 0 名、報道関係者 1 名、執行機関 0 名	

会 議 の 概 要

1 1 : 0 0

1 開議

[明田議長 開議]

[事務局長 日程説明]

2 行政報告

[プロジェクト・チーム入室]

1 1 : 0 2

[プロジェクト・チーム 説明]

(1) 大規模スポーツ施設整備事業に係る状況報告

[政策推進室長説明]

事業スケジュールについて

資料 1 説明

○アユモドキ生息環境実証実験は共生ゾーン整備につながるもので次年度も引き

続き行い、以後状況に応じた生息環境保全策を進める。

- 公園整備事業用地は今年度全部買収する予定である。事業認可後、地権者に7月末から8月ごろにかけて用地買収の協力を求める。その後順次買い戻す。
- 共生ゾーン・憩いのゾーン整備は具体には事業期間の後半で実施。事業認可に合わせて都市計画法、農振法等の法令手続きを行う。環境省、文化庁、京都府とは文化財保護法上の調整が必要で、環境保全専門家会議の保全策検討と合わせ随時協議、調整している。
- 上下水道整備はスタジアム整備の進捗に合わせて進めるべく府と協議している。
- 府においては、スタジアム基本プランが今月末完成の予定で、6月補正で基本設計1億円を予算計上され本体建築物の規模、配置、外観、にぎわい施設の機能、規模、概算事業費、費用対効果を検討される。基本プランの遅れから基本設計の着手が遅れ、事業期間を変更し平成29年度末の完成目標とされた。
- 本市は、希少生物の保全策検討、アユモドキの生息環境実証実験、用地買収など当初の予定どおり進めている。

市道宇津根並河線は川東地域から亀岡駅を結ぶ生活道路として整備要望のある路線である。右岸堤防の拡幅を亀岡駅北地区区画整理事業地域まで順次進めていきたい。

[まちづくり推進部長説明]

京都・亀岡保津川公園整備事業について

- 平成26年5月12日都市計画決定を告示。その後関係機関と協議し、現在事業認可に向け準備をしている。

○資料2 説明

事業認可後、先行取得用地を年度ごとに補助を得ながら順次買い戻す。

施設整備についてはスタジアム基本設計、アユモドキ実証実験との調整をしながら具体的に計画をまとめる。

[環境市民部長]

アユモドキ生息環境実証実験について

○資料3 説明

11 : 15

(2) 質疑

<立花議員>

1年延期の理由とスケジュール変更は。
事業費と補助金の詳細は。

の、文化庁本庁協議のものは文化庁本庁に先に問合わせ、市の許認可でというような振り分けをしてもらっている。

<環境市民部長>

文化庁は文化財保護法、環境省は種の保存法、京都府は自然環境に関する条例によりアユモドキ等希少生物実験などの手続きが必要で、随時協議、調整を行う。環境保全専門家会議はオブザーバーで常に参加してもらっている。

野外実験のため保全上、実験後の公表について理解願う。順調な結果というのは専門家会議の座長の言葉である。実験目的の自然繁殖実験場、放流魚による繁殖実験場で調査し、稚魚の成育場を作ることで、今は目的に照らし順調に推移している。

<馬場議員>

基本プラン遅れの理由は必ずつかんでもらいたい。

<政策推進室長>

当初は3月末までで発注されている。遅れの理由は聞いていない。報告する。

<酒井議員>

公園整備 15 億円のことは初めて聞いた。当初予算編成時に分かっていたのか。

アユモドキ実証実験について、開発による影響はどう検証するのか。

<まちづくり推進部長>

市の整備範囲確定後、事業費が算定できる。今日まで府と調整し確定を受け事業費を算定した。

<環境市民部長>

専門家会議では公園、スタジアム整備による希少生物への影響と合わせ、絶滅危惧種アユモドキの新たな生育場、生息環境整備が必要の観点から指導をもらっている。アユモドキは水路に水があれば遡上する。この際に整備し新たな生育場の創出を議論してもらっている。

<まちづくり推進部長>

15 億円は共生ゾーン整備のグレードで変化する。当初の見込額である。専門家会議の意見を尊重している。整備内容の調整は今後も必要で、その後事業費を確定する。

<酒井議員>

予算時に概算でも算定していなかったのか。共生ゾーンのグレードで変わるなら事業費はもっと大きくなる、どこまで見込んでいるのか。

事前に関係機関の調整が必要とのこと。文化庁には今のやり方を確認しているのか。新しい繁殖環境を作る調査であって、スタジアム建設による影響調査ではな

いのでは。

<まちづくり推進部長>

シュミレーションはしていた。府との協議が一定成立し算定した。整備費は上がる可能性もあるが、15億円以下でおさまる可能性もある。

<環境市民部長>

専門家会議委員4名によるワーキング会議の案は文化庁に事前協議している。専門家会議で実験内容に賛同を得たうえで文化庁へ申請手続きを公式にした。公園整備、スタジアム建設に合わせてアユモドキの生息環境の影響や改善を検討している。

<西口議員>

実証実験場を作る際の意見はいろいろあった。当初経過どおりの結果が得られ、それ以上の結果もでていると思う。

<環境市民部長>

野外の希少種なので詳細に報告できない。実験目的は順調な結果を残している。

<西口議員>

理解する。

<井上議員>

基本プランが遅れた理由はアユモドキ保全のためと新聞記事に掲載されているが、そうではないと理解してよいのか。

<政策推進室長>

知事の一般質問答弁後、府スポーツ振興課が取材を受けられた。その時には環境保全の観点を入れるのが必要との意見もあり公共事業評価を受けるためにも基本設計で費用対効果などを明らかにしていきたいとされており、アユモドキの保全のため遅れるとは言われていない。

<井上議員>

新聞の見出しではそう解釈できるが、そうでないことを理解した。

<並河議員>

アユモドキ実証実験は4年間で成果が得られるのか。

<環境市民部長>

4年は決まったものではない。結果をもとに順応的管理が必要と考えている。

<苗村議員>

基本プランでは洪水対策の検証をされるのか。

<まちづくり推進部長>

府が責任をもって実施される。河川管理者も府であり十分な調整がされると確信し

ている。盛土量に対する浸水量の補完は、スタジアムの地下、足らなければ駐車場の地下を掘り下げ確保される。基本的には現在の桂川、支川が有する安定度を低下させないものである。

< 苗村議員 >

どこの見解なのか。

< まちづくり推進部長 >

府議会で答弁されている。

< 苗村議員 >

一番の被害は本市である。府に第三者機関などの調査を求める予定はないのか。

< まちづくり推進部長 >

府は洪水のシュミレーションをされている。100年に一度の流量に対応する浸水量を補完できる施設にするとのことである。

< 吉田議員 >

公園 15 億円について財政課との調整はできているのか。
予算計上はいつか。

< まちづくり推進部長 >

平成 30 年度までの 5 年間で予算執行する。買戻しは平成 29 年度までに完了したい。プロジェクトチームで調整している。

< 吉田議員 >

財政担当も今日出席されていればよかった。今日になって 15 億円と聞いたが、このように増えていくのか。

< 政策推進室長 >

公園整備事業費は算定次第報告すると説明してきた。

< 吉田議員 >

それは分かっているが、15 億円とは誰も思っていなかった。財政は大丈夫なのか。

< 政策推進室長 >

財政との調整はできている。補助金、起債も受ける。

< 酒井議員 >

切り下げ含め駐車場は府が施工するのか。

開発に伴う治水安全度が低下しないよう市はどう進めるのか。

プロジェクトチームでの財政面の協議内容を議会に説明してもらえないのか。

< まちづくり推進部長 >

府が施工される。

実施設計のなかで府との治水協議を申合せしている。整備のなかで対応する。

< 政策推進室長 >

一定の形ができ進めるまでには議会に報告する。意思決定過程での公表は用地買収等の関係で控えることも有る。

< 酒井議員 >

15 億円は初めて聞いた。今は財政面のことを言っている。情報を議会にも共有してもらいたい。

< 政策推進室長 >

実施段階の前には報告する。

[プロジェクト・チーム 退室]

12 : 00

3 その他

なし

[明田議長 閉議]

散会 12 : 02